

みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.4

令和2年9月7日

8月27日(木)に、南下浦市民センターにて、本年度第1回のみうら学研究会が開催されました。市内の経験2年目の先生方が対象で、7人が参加しました。

最初に、平成16年に「みうら学」を立ち上げて以来、指導・助言をいただいている五島政一国立教育政策研究所総括研究官より、ご自身の教員としての体験をもとに、フィールドワークの重要性や地域を教材化することの大切さについて、お話いただきました。最後に、教材開発の方法として、アースシステムについての説明がありました。



アースシステムは、「自然は、相互に関わりを持って成立している」ということを、考え方の基本にしています。事象を「美しい地球」「人間の影響」「科学技術の進歩」「システム」「時による変化」「大きい空間」「趣味・職業」の7つの視点でとらえていきます。このシステムは、学校で先生方が扱う教材を、多面的・総合的にとらえるために、たいへん有効だと考えられます。

その後、各研究員による、アースシステムにより開発しようとしているカリキュラムについての情報交換が行われました。先生方のテーマは次の通りです。



「めざせ野菜づくり名人～三浦の名産品を育てて知ろう(ダイコン編)～」、「森林とともに生きる～小網代の森～」、「すてきいっぱいわたしたちのみうら～三崎まぐるってなんだろう～」、「短歌から表現の効果について考えよう」、「図形の調べ方～角と平行線・多角形の角・三角形の合同～」、「真珠」、「物質のすがた～いろいろな物質～」、「海の生き物となかよくしよう」

どの先生も、よく研究していて、たいへん頼もしかったです。秋以降、1名の先生が代表授業をする予定です。

SDGsについてその2 「MSC認証とは」

「MSC (Marine Stewardship Council、海洋管理協議会)」の青いマークのついた水産物を目にしたことはありますか？ このマークはいつまでも魚を食べ続けることができるように、海洋の自然環境や水産資源を守って獲られた天然の水産物に与えられる認証エコラベルです。消費者がこのマークのついたシーフードを選ぶことで、世界の海洋保全を間接的に応援できる仕組みです。(「MSCニュース」より)



る」より)

企業も、SDGsを意識して、様々な取組を始めています。スポーツ用品のアディダスが海岸で回収されたプラゴミをリサイクルした糸で作ったランニングシューズは、2017年だけで、100万足以上が売れたそうです。「一足につき約11本のペットボトルが海に流出するのを防いだ」そうです。(朝日新聞社 「2030 SDGsで変える」より)

みうら学・海洋教育に関するお問い合わせは、三浦市教育委員会

882-1111 (内線428) まで